

令和 6 年度

「運営に関する計画」



大阪市立茨田南小学校

令和 6 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・令和5年度の全国学力・学習状況調査(4月実施)では、平均正答率で国語科においては全国平均、大阪市平均を2ポイント程度下回り、算数科においても全国平均、大阪市平均とともに3ポイント程度下回る結果となった。12月実施の大阪市学力経年調査では、6年においては、前年度を下回ったが、4年、5年においては、大阪市平均を上回る教科も見られ、総合点においては前年度を上回った。年間通じての取り組みが徐々に効果を上げてきていると思われる。年度目標に加わった理科学習・外国語(英語)学習への興味、関心の向上に関しては、目標値を達成することができた。今年度も、理科専科授業や英語の短時間学習、C-NETを活用しての効果的な学習形態を継続して取り入れ、すべての教科において基礎・基本の学力の向上を図ると共に、研究テーマである「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業研究に取り組んでいくことが必要である。
- ・タブレットなどICT機器を活用した学習を継続して取り入れることにより児童はいろいろな場面で積極的にICT機器を活用して学習をすることができるようになり、低学年の児童のタイピング技術の向上もみられた。今年度も継続して取り入れていきたい。
- ・授業規律を守る順法意識は向上してきている。個々の児童の自尊感情の向上については、継続した取り組みで徐々にではあるが向上してきている。学校安心ルールを定着させるとともに、思いやりの心や、ありがとうの気持ちを継続して育てていきたい。
- ・不登校児童については、増減を繰り返している状態で、改善にはいたっていない。
- ・令和5年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果、男女とも体力合計点で大阪市平均を下回ったが、数年来課題であった長座体前屈の記録の向上は見られた。今後も全学年で継続して体力向上の取り組みを進めていかなければならない。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させ、全校で8名以下にする。
- ・防災教育を実施するとともに、令和7年度末の校内調査において、「学校や家庭・地域などで地震や津波・火災が起こったとき、どう行動したらよいかを知っていますか。」の項目に肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を55%以上にする。
- ・令和7年度の小学校学力経年調査における正答率5割以下の児童を、いずれの学年も令和3年度より4ポイント減少させる。
- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における5年生の体力合計点を、男女とも令和3年度より5ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く] 【基本的な方向6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】
- ・デジタル教材を活用した朝学習等を週2回以上実施する。
- ・令和7年度末までに、すべての教室（特別教室を含む）に大画面テレビ（大型ビジョン）を配備する。
- ・令和7年度までに、年次有給休暇を年間10日以上取得する教職員の割合を100%にする。
- ・令和7年度までに、「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を50%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
【基本的な方向1、安全・安心な教育の推進】

- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】

- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】

- ・ 防災教育を実施するとともに、令和6年度末の校内調査において、「学校や家庭・地域などで地震や津波・火災が起こったとき、どう行動したらよいかを知っていますか。」の項目に肯定的な回答をする児童の割合を85%以上にする。
【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を35%以上にする。

【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。

【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】

- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度以上にする。

【基本的な方向5、健やかな体の育成】

- ・ 令和6年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。

【基本的な方向4、誰一人取り残さない学力の向上】

- ・ 令和6年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における5年生の体力合計点を、男女とも令和5年度より2ポイント向上させる。
【基本的な方向5、健やかな体の育成】

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の８割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の６０％以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ＩＣＴ活用が適さない日数を除く]
【基本的な方向６、教育ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進】
- ・年次有給休暇を年間１０日以上取得する教職員の割合を９５％以上にする。
【基本的な方向７、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準２を満たす教員の割合を８０％以上にする。
【基本的な方向７、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】
- ・各学年全員公開の研究授業をＩＣＴ機器を利用しながら行う。（計７回）
【基本的な方向６、教育ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進】
- ・全教員１回以上、公開授業を行う。
【基本的な方向６、教育ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進】
- ・デジタル教材を活用した朝学習等を週１回以上実施する。
【基本的な方向６、教育ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）の推進】

３ 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立茨田南小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 80 % 以上にする。 【基本的な方向 1、安全・安心な教育の推進】 ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】 ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】 ・ 防災教育を実施するとともに、令和 6 年度末の校内調査において、「学校や家庭・地域などで地震や津波・火災が起こったとき、どう行動したらよいかを知っていますか。」の項目に肯定的な回答をする児童の割合を 85 % 以上にする。 【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向 1、安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童によい生活習慣を身に付けさせる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート項目「チャイムの合図をきいて行動することができますか」で肯定的な回答の児童の割合を 90 % 以上にする。 ・ 不登校児童(年間 30 日以上欠席)の人数を前年度より減少させる。 	
<p>取組内容②【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもどうしの「よいところみつけ」に取り組む。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「あいさつの大切さ」についての話し合いの機会を取り入れ、自尊感情を育てる。 ・ アンケート項目「自分にはよいところがあると思いますか。」で肯定的な回答の児童の割合を 75 % 以上にする。 ・ アンケート項目「あなたは困っている友達を助けることができますか。」で肯定的な回答の児童の割合を 90 % 以上にする。 	
<p>取組内容③【基本的な方向 2、豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 縦割り班活動を充実させたり他学年との交流を図ったりして、違いを認め合い、学年を超えた仲間づくりや思いやりの心を育てる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「全校遠足」、「ハッピーフェスティバル」、「6 年生ありがとう会」を実施する。 ・ その他、積極的に他学年との交流を図る。 	

<p>取り組み内容④【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育の授業を実施し、防災に対する意識付けに取り組む。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を年間 3 回、各学級で防災に関する学習を年 1 回以上実施する。 ・校内アンケート「学校や家庭・地域などで地震や津波・火災が起こった時、どう行動したら良いかを知っていますか。」で肯定的な回答の児童の割合を 85 %以上にする。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪市立茨田南小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 35 % 以上にする。 【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント向上させる。 【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70 % 以上にする。 【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・ 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70 % 以上にする。 【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を前年度以上にする。 【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・ 令和 6 年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。 【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】 ・ 令和 6 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における 5 年生の体力合計点を、男女とも令和 4 年度より 2 ポイント向上させる。 【基本的な方向 5、健やかな体の育成】 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向 4、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験的活動や ICT を活用し、意欲を高める授業に取り組む。またオンライン授業を活用し、子どもたちの学びを保障する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての学級でタブレットを活用した学習に週 1 回以上取り組む。 ・ アンケート項目「タブレットやデジタル教科書を使うと学習が楽しい」で肯定的な回答を 85 % 以上にする。 	

<p>取組内容②【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「『主体的・対話的で深い学び』に導く授業展開の追求」をテーマとして研究授業に取り組む。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年、全員公開の研究授業を行う。（計７回） ・全教員１回以上の公開授業を行う。 ・アンケート項目「あなたは友だちと話し合う学習は好きですか」で肯定的な回答を８０％以上となるように取り組む。 	
<p>取組内容③【基本的な方向４、誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態をよりの確に把握し、単元教材に応じた効果的な授業に取り組む。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目「授業はよくわかりますか」で肯定的な回答を８０％以上となるように取り組む。 ・校内アンケートにおける「宿題をしていますか」の項目について、肯定的な回答をする児童の割合を９５％以上にする。 ・校内アンケートにおける「家庭学習（宿題以外の学習。自主学習を含む）をしていますか」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を７０％以上にする。 	
<p>取組内容④【基本的な方向５、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの校内平均値を向上させる。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・１，２学年では「握力」、３～６学年では「反復横跳び」「２０ｍシャトルラン」の校内平均値が上がるよう取り組む。 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向５、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・１年を通して全校で体力向上の取り組み（駆け足、縄跳び、ストレッチ体操）を実施する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートにおける「運動することが好き」の項目について肯定的な回答をする児童の割合を年度当初より向上させる。 ・体力向上の取り組みを年間１０日以上実施する。 	
<p>取組内容⑥【基本的な方向５、健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の体力向上を図ると共に、食育の推進に取り組む。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目「朝ごはんを食べていますか」で肯定的な回答を９５％以上となるように取り組む。 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪市立茨田南小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 60% 以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く] 【基本的な方向 6、教育 D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 ・年次有給休暇を年間 10 日以上取得する教職員の割合を 95% 以上にする。【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 80% 以上にする。【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・各学年全員公開の研究授業を ICT 機器を利用しながら行う。(計 7 回)【基本的な方向 6、教育 D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 ・デジタル教材を活用した朝学習等を週 1 回以上実施する。【基本的な方向 6、教育 D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進】 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【基本的な方向 6、教育 D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の会、モジュールタイム等を活用してデジタル教材、協働学習支援ツールを活用した学習に取り組む。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教材を活用した朝学習等を週 1 回以上実施する。 	
<p>取組内容② 【基本的な方向 6、教育 D X (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT を活用し、意欲を高める授業に取り組む。またオンライン授業を活用し、子どもたちの学びを保障する。(再掲) <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての学級でタブレットを活用した学習に週 1 回以上取り組む。 	
<p>取組内容③ 【基本的な方向 7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の取り組み時間を見直し、行事等の精選をはかる。また、ゆとりの日を週 1 回設定し実施する。 	

指標	
・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 80 % 以上にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

※「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2

- 基準 2 ア 1 年間の時間外勤務時間が 720 時間を超えないようにすること
 イ 1 か月の時間外勤務時間が 45 時間を超える月を 1 年間に 6 月までとすること
 ウ 1 か月の時間外勤務時間が 100 時間を超えないようにすること
 エ 連続する複数月(2 か月、3 か月、4 か月、5 か月、6 か月)のそれぞれの期間について
 時間外勤務の 1 か月当たりの平均が 80 時間を超えないようにすること

※基準 1・・時間外勤務時間→1 か月 45 時間以内、1 年間 360 時間以内